

臨床研究「当院での潰瘍性大腸炎症例における手術成績の検討」  
についての情報公開

潰瘍性大腸炎は原因不明の難治性の炎症性疾患であり、いまだに根治治療が確立されていません。治療は内科治療が主となり、重症、難治、癌合併などがおこると大腸切除手術が必要になります。大腸切除後は大腸欠落症状による水様便・脱水、肛門温存した場合には回腸囊関連合併症、高齢者に対する治療など検討すべき課題が多くあります。当院での潰瘍性大腸炎における手術成績および術後経過などの諸問題について検討する観察研究を計画しました。

研究対象期間：2007年～2021年

研究対象：上記期間に東北労災病院大腸肛門外科で手術を受けた潰瘍性大腸炎患者

方法：当院での潰瘍性大腸炎症例における手術成績について診療録を調査し、retrospective に検討します。解析を行う際には氏名や手術日などの個人を同定できるデータは削除した形で行い、特定の患者さんに直接の不利益がもたらされることはないよう最大限の配慮を行います。

なお、研究に関するお問い合わせ、ご意見、研究協力拒否等のご要望につきましては、研究代表者までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

研究代表者：

独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院

大腸肛門外科 羽根田 祥

TEL 022-275-1111, FAX 022-275-7541

〒981-8563 仙台市青葉区台原4丁目3-21